

- ・草刈りは適期に的確に実施しましょう！
- ・てんたかくの防除は生育に合わせて適切に行いましょう！

<生育状況>

- ・てんたかく：平年に比べ、草丈は並、茎数は並～やや少なく、葉色は並、となっています。
幼穂形成期は近年並の6月25日でした。出穂期も近年並の7月16日頃の見込みです。
- ・コシヒカリ：平年に比べ、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は並です。

射水市技術者協議会調査圃(6月25日調査)

()内は見込み

品種	年度	田植日	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉令	葉色	幼穂形成期	出穂期
てんたかく	R6	5月2日	54.1	541	11.3	4.3	6月25日	(7月16日)
	平年	5月2日	56.3	655	11.2	4.4	6月24日*	7月15日*
コシヒカリ	R6	5月12日	51.1	548	10.2	4.1	—	—
	平年	5月12日	49.1	498	10.3	4.2	7月10日	8月1日

※てんたかくの葉令と幼穂形成期・出穂期は、近年値(R2～5の平均値)

1 斑点米防止対策

- ・気温の上昇に伴い斑点米カメムシ類の発生が多くなるおそれがあるので、イネ科雑草の穂が出ないよう草刈りを徹底する。

草刈り運動期間 : 6月28日～7月7日

一斉草刈り日 : 6月29日(土)、30日(日)

カメムシすくい取り調査(捕獲数/調査個所)

年度	畦畔・雑草地	大麦あと圃場(耕起等未実施)
R6	40.8	18.1
R5	12.2	37.5
平年	16.1	35.2

この時期には、カメムシ類は畦畔や、雑草地等に生息しており、稲が出穂すると水田内に多く侵入してくる。

2 「てんたかく」の防除

てんたかくの生育状況を見て、適期に防除してください。

- ・防除作業は風のない朝夕の時間帯に行いましょう。(周囲へのドリフトに注意)
- ・散布の間隔は7日間を基本とし、効果を保つため10日以上の日数を開けないでください。

<てんたかく防除日程の目安>

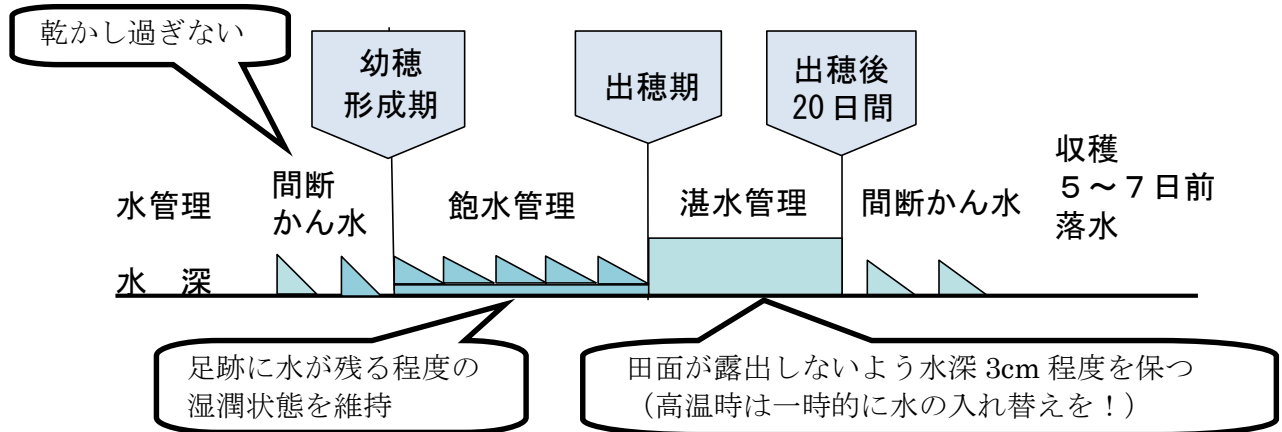
体系	1回目 穂揃期(出穂3日後) 7/19 頃	2回目 傾穂期(1回目の7日後) 7/26 頃
粉剤	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a
液剤	ビームエイトスタークルゾル ブーム等 1,000倍 150ℓ/10a ドローン 8倍 0.8ℓ/10a	ラブサイドK2フロアブル ブーム等 1,000倍 150ℓ/10a ドローン 8倍 0.8ℓ/10a

※カメムシ類が多発生し、追加防除が必要となる場合は、随時お知らせします。

3 水管理

・稲体の活力を維持するために、幼穂形成期から出穂期までは足跡に水が残る程度の湿潤状態を保つ「飽水管理」、出穂後 20 日間は水深 3 cm 程度の「湛水管理」を行いましょう。

<水管理のイメージ>



4 てんたかくの追加穂肥

・出穂7日前頃の葉色が4.2以下と淡い圃場は、下表のとおり追肥してください。

判断基準 (出穂7日前頃の葉色)	施用時期 (出穂3日前まで)	肥料名	10a当たり 施用量	穂揃期 目標葉色
7月9日頃に 葉色4.2以下の場合	7月13日頃まで	「追肥3号」または 「流し込追肥化成ららく」	7kg	4.5程度

○農作業中の熱中症対策について(事故防止に努めてください)

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ② 屋外の作業では帽子や吸汗速乾性の衣類を着用する。
- ③ 屋内の作業では必要に応じ送風機やスポットクーラーなどを利用する。
- ④ のどが渇いていなくても 20 分おきに休憩し、
毎回コップ1~2杯以上を目安に水分補給する。
- ⑤ 作業は出来るだけ複数で行い、
時間を決めて水分・塩分補給の声かけや
体調に異常が無いか確認しあう。

